

## 視力と視野

堀口正之

藤田保健衛生大学眼科

視力は最少分離閾であり、2点を識別できる最小の視角の逆数としてあらわされる。本邦で一般的に用いられている視力表は種々のサイズのCが並べられたものである。方向が分かる最小のCのサイズから視力を求める。この視力は「中心視力」とよばれるように網膜中心部(中心窩)の最少分離閾値である。しかし、中心部の網膜感度が低下した人では中心窩以外のもっとも感度のよい網膜でものを見る必要がある(中心外固視)。中心部より少し離れたところでも0.5以上の視力があるが、実際にはこの視力を使いこなせる人は多くはない。

中心窩に障害をうけた症例は、通常の視力表を用い入ると低視力であるが、周辺視野は正常である。視力 training すれば、かなり良い視力が得られ、通常の生活にも不自由はない事も多い。逆に中心窩さえ残っていれば視力は1.0以上あるが、周辺視野はなく歩行も困難なこともある。

通常の視力のみで視覚に関する運転の適性を判断するのはかなり無理がある。視野検査も含め総合的に判断する必要がある。

講演では視力の意味するもの、種々の眼科疾患での視力、視野などから視機能検査の重要性を考える。